

平成 26 年 1 月 28 日

第 2 3 回 玄海町立小中学校基本構想等検討委員会

I. 開 会

II. 協 議

1. 検討委員会作業部会の進捗について
2. 玄海町立小中学校校舎・体育館建設工事について
3. その他
 - (1) 先進校視察報告

IV. 次回日程の確認

平成 26 年 月 日 () 18 時 30 分～20 時 00 分

V. 閉 会

1. 検討委員会作業部会の進捗について

①協議内容と進捗状況（10月22日～1月24日分）

会議名	上段：○協議項目と内容、★仮決定・一応の決定	開催状況
	下段：○協議項目	予定
①検討委員会	開催なし	
	<ul style="list-style-type: none"> ㊦視察を受けて振り返り ㊦校名・通称の応募状況と今後について 	第23回：1月28日
②学校運営 作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ㊦制服・標準服の導入について ☆全学年に制服等を導入する 制服等の内容、導入学年等は次回以降協議 ㊦校歌制作について 校歌の制作方法、制作者等は次回以降協議 ㊦校名・通称募集について 応募内容は別紙のとおり（資料 No.1） ★選定基準 校名の選定基準として <ul style="list-style-type: none"> ・小学校名と中学校名は同一名称とする ・校名案の理由が明確である 通称の選定基準として <ul style="list-style-type: none"> ・通称案の理由が明確である ★選定方法 <ul style="list-style-type: none"> ・協議対象を絞り込むため、各部会員一人5つの提案を行う ・提案された対象を部会で一つずつ協議する 	<p>第4回：11月18日</p> <p>第5回：1月21日</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ㊦校名・通称の選定について 協議対象を絞り込み、協議のうえ、候補名の提案 ⇒提案後、検討委員会で協議ののち提案(3月中) ㊦制服の導入について 制服の定義や範囲、種類、運用等を定める 	第6回：2月4日
	③学校支援 作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ㊦PTA・育友会の組織体制について ★会員は、子どもの保護者及び教職員で構成 ★本部役員を会長、副会長、書記、会計、副会計、

	<p>母親部長、母親副部長とする</p> <p>★各地区を5ブロックに編制し、地区役員を5名以上選出する。そのうち、2名は本部に所属する</p> <p>★学級役員は、各学級1名とし、専門部に所属する</p> <p>★任期は、本部役員2年、その他の専門部、学級役員1年とする</p> <p>★本部役員はブロックでローテーションを行う</p> <p>会則の骨子は別紙のとおり（資料 No.2）</p>	
	<p>①PTA・育友会の組織体制について</p> <p>骨子について、各PTA・育友会の意見収集</p> <p>会費、活動計画について</p>	第6回：2月12日
④事務 作業部会	<p>①多久市小中一貫校中央校視察</p> <p>引越の準備や開校前後の必要な作業やチェック内容等を確認</p> <p>①備品の精査について</p> <p>12月に教職員による現品備品の確認を実施</p> <p>実施内容を受けて、当初予算にて不足備品、引越、廃棄処分費用の予算要求</p> <p>①校納金の事務取扱いについて</p>	<p>第3回：10月29日</p> <p>第4回：11月12日</p> <p>第5回：2月上旬</p>
⑤教育課程等 作業部会	<p>①グランドデザインと校務分掌</p> <p>①各教科等の年間指導計画作成</p>	第5回：12月5日
	<p>①グランドデザインについて</p> <p>①各教科等の年間指導計画作成について</p> <p>①平成26年度交流活動について</p> <p>①視察：学校運営や指導の内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八女市上陽北内学園：1/29 ・松江市八束学園：1/30 	<p>第6回：1月27日</p> <p>視察：1月29,30日</p>
⑥通学 作業部会	<p>①通学方法について</p> <p>★自転車通学は、5年生以上とする</p> <p>①通学路について(資料 No.3)</p> <p>★各PTA・育友会から意見持ち寄り・・・一部見直し</p> <p>この通学路を基に、県、警察等を含め通学路点検</p>	<p>第4回：11月19日</p> <p>第5回：1月14日</p>

	<p>㊦通学バスの運行</p> <p>★部活動の送迎も含め運行を希望、ただし、部活動日の運行路線は実態に合わせ変更する</p> <p>★福祉バスとの併用等も考慮</p>	
	<p>㊧自転車等購入補助制度について</p> <p>自転車購入及びヘルメット購入補助制度について</p>	<p>第6回：3月19日</p>

3. その他

(1) 先進校視察報告

- ①視察日：平成 25 年 12 月 9・10 日
- ②視察先：立命館小学校(私立)・京都市東山開晴館(公立)
- ③視察概要：施設及び学校運営内容ほか別紙のとおり
- ④映像の紹介

平成 25 年 12 月 9 日

学校視察に関する質問と回答内容

I. 視察先：立命館小学校

1. 学校の説明

- ・2006 年 4 月開校
- ・4 つの柱を基に指導。
- ・授業に入る前の準備運動・・・モジュールタイム
- ・語彙力を高める・・・辞書引き学習、小論文学習
- ・読書の時間・・・1～4 年に週 1 設定。読み聞かせや調べ方学習、本の紹介、自由読書。年間 10 万冊の貸出状況。
- ・計算力・・・モジュールタイムに 100 マス計算や 2 年生の暗算力をつけるためのそろばんの実施
- ・自然体験・・・近くの植物園や鴨川河川敷を活用
- ・ロボット学習・・・1～4 年生、子どもたちの論理性を高めるための学習。
- ・ICT 教育・・・4, 5 年生は全員個人購入。学校全体でも実施。
- ・新の国際人を育てる活動・・・活動というわけではなく、教科として取り入れている。1・2 年生は週 2 時間、3・4 年生は週 3 時間実施。ネイティブと日本人の英語の先生がペアでオールイングリッシュ。二人のやり取りを見ながら、話している内容を認識する。4・5 年では、クラスを分けて実施。
- ・国際交流・・・別府立命館アジア太平洋大学から 20 か国、30 人程の学生が来て、クラスに入り、英語を勉強したり、文化を学んだり、6 年生は京都の町を案内している。
ほかの国の学校とは、北京大学付属小学校とは、1 年おきに往来、シンガポールのルーラン小学校とはロボットを介して交流。アメリカのカリフォルニア工科大学に隣接するポリテクニックスクールとの交流を進めている。
- ・豊かな感性・・・音楽・体育、図工などの専科は、1 年生の時からカリキュラムに基づいて、指導を行っている。
- ・倫理観を高める・・・建学の精神に基づいた立命科を取り入れる。社会のために役に立つ人間になるにはどうしたらいいのか、などに取り組んでいる。
- ・ハウス活動・・・6 年間変わらない縦割り活動。120 名が一つのハウス。行事に取り組む。
- ・小中一貫・・・5・6 年生には、教科担任制や定期テストを実施。カリキュラムでは、6 年生の算数で数学的なアプローチを導入したり、中学校との段差を少なくしている。

2. 質問

【登下校】

(1)登下校時の IC カードのデータは、出欠等の管理に活用されていますか。

⇒IC カードをかざすと、保護者にメールが送信される。私鉄では、登録していれば、電車の開札を通過した時点でもメールが送信。登校状況がどの端末からも一目で確認できる。

【モジュールタイム】

(2) 朝の「モジュールタイム」について、目的・内容・ねらいなどを教えてください。

⇒脳を活性化させ、授業に入る準備を行うことを目的とし、朝の時間（10 分間）に実施。計算、国語音読、英語の音読などを行う。リズム、テンポ、スピードを重視したもの。必ずしも教科書の内容ではない。古典文学、100 マス計算など

【寺子屋の時間】

(3) 「寺子屋の時間」の活用方法、運営方法等を教えてください。

⇒反復学習の時間、補習の時間として活用している。月～水の 15 時 40 分～16 時 30 分に行う。全員を対象として実施することもある。

【アフタースクール】

(4) アフタースクールの運営方法、開催頻度、指導者等について教えてください。

⇒学童保育的な要望があり、学校で習い事ができれば、時間を有効活用できる。子どもたちに効果的なもの、新たな力をつけてくれれば、17 種類。それぞれの専門家に来ていただいている。選択制のため、別に講座料金を徴収している。16 時 30 分から 1 時間程度実施。

【教科等】

(5) 教科によっては、独自教材を使用されていますか。使用教科や作成母体、教材の概要等を教えてください。

(6) 1 年生から実施されている英語の授業について、教えてください。

(7) 留学への参加者や実施内容、ワールドウィークの運営内容や実施内容等について教えてください。

(8) 独自の教科や教育課程等について教えてください。

(9) 教職員やスタッフについて教えてください。

⇒英語は、いっぱい聞いて、いっぱい口に出していく。二人の先生が、実際に話す内容を聞いたり、電子黒板を使って目で見て、言葉と音がつながるようにしている。また、メディアセンターに簡単な英語の本を置いており、3 年生からはその本を読む機会を与えている。中学校の文法的なものを中心に進んでいるのではなく、必要なところで英語が使えることを重視して行っている。6 年生では、中学校英語につなげていくことを意識しながら、文法的な部分も入っている。

⇒インターナショナルスクールに行っていて、入ってこられる方もいれば、家庭ではやっていない子どももいる。差はある。学校では、できる人、できない人に合わせるのではなく、それぞれの子どもたちが楽しく学んでもらえるように取り組んでいる。

⇒オーストラリアトウンバとターム留学の提携を行い、2 か月間学校の寮に入って生活をしている。

1 年に 2 回実施。今年度は、前期 9 名、後期 3 名。学力面の基準もあるが、自分でやって乗り越えていこうという意識を尊重。苦労はその後の子どもたちの大きな力になっている。

その他に、10 日間の短期留学をしたり、オックスフォード大学の寮で生活しながら、英語に取り組む、北京やシンガポールの小学校との交流を行っている。

カリフォルニア工科大学ともそのような取り組みを行ってきたい。

いろんな形で子どもたちに海外を体験させたい。

⇒教育課程は、学習指導要領の枠組みはクリアしなければならない。プラスアルファの時間数が必要。1年生でもほとんど6時間授業。2週間に1回5時間がある。3年生以上は隔週で土曜日授業を行っている。プラスアルファで独自教科を実施している。

⇒社会で独自の補助教材を、英語はこれまで積み上げてきたものをカリキュラムとして編制。算数は、発展的なものを教材化して使っている。

作成の母体は、算数や英語は、教科の教科部会をベースにしなが、作っている。

⇒全員で80名程。専任の教員、非常勤も含めて。学年8名体制。副担任も専科教科を持つことが多い。ファーストステージ(1～4年)は、国・算・社・生活・立命科・学活等は担任が指導。音・体・図・英・理等は専科の教員が指導している。5, 6年生は、基本教科担任制で行っている。

【ICT教育】

(10) ICT教育の状況について教えてください。

⇒開校時より、デジタル化を進めていくため、ホワイトボード、プロジェクタを使っており、パソコンは教材サーバーとつながっているので、どこからでも教材を開くことができる。使おうと思った時にすぐ使える環境を進めていくことが、授業を変えていこう。プロジェクタが固定されていることが必然性としてあったが、いまは必ずしも固定されている必要はなくなった。

みんなが一緒のものに取り組んでいくときに、これまでの経験等に引きずられていくのではなく、新しいものに取り組んでいくなだとスタートすることで、足並みをそろえて出発することは必要だと感じた。授業の中で、一斉に見てもらうことは非常に有効。

学習のもう一つの形態として、子どもたち自身が調べたり、まとめたりする学習形態が出てくる。そのようなこともあり、タブレットを4・5年生に持たせている。将来的には、アカデミックライティングがパソコン等を使って行うことが必要になってくるので、タイミング等も行っている。

ICT機器をどう活用するのかを焦点に充てて研究発表。

【小中高一貫】

(11) 小中高一貫の教育課程で柱となっているもの、貫いているものは何ですか。

(12) 小と中高との交流は行われていますか。

⇒グローバルな環境の中で、生活しなければならない。ICTにしても英語教育にしても。人として自立して、協力して生活することも大事なこと。小中高一貫して取り組んでいる部分ではあるが、校舎が離れているので、課題がある。

中学校の先生がテスト期間中の空き時間を見つけて、小学校に来たり、クリスマスコンサートで小学校を卒業した中学生がコンサートをしてくれたり、年数を重ねてきてやれるようになった。実際に人の交流が必要。免許の問題もあるが、セカンドステージの先生方には、何年かかかって、複数免許を取得してもらえよう支援している。

高校との連携では、小学校のクラブ活動のサポーターとして参加したり、学習サポーターとして6年生の算数の指導に来てもらったりしている。

⇒自立・・・小中高を4-4-4に区分。セカンドステージ(5～8年)の8年時には、立志式を行う。自律の基礎を培うため、宿泊学習を実施。

【その他】

(13)1年生と6年生の「バディ」やハウス制度について詳しく教えてください。

⇒1年から6年まで同じ縦割り班を作る。1つのハウスが120人となる。30人×4の構成となっている＝ファミリー。ファミリー毎に一緒に遊んだり、お弁当食べたり、掃除をしたり、日常的に行っている。一番小さい単位がブラザーアンドシスターという単位になり、6人の単位であり、1学年1人ずつで構成されている。1人が卒業すれば、新しく1年生が1人入ってくる。どの子も最高学年になってたら、リーダーとしてお兄さんお姉さんとしての役割を果たす。

【施設】

(14)メディアセンターについて（特徴、運営方法、蔵書の内容等）教えてください。

⇒年間貸し出しは、10万冊(140冊/年/一人)。司書教諭一人と司書一人配置している。司書教諭は週1時間×16コマを担当している。

(15)1クラス30人×4クラス×6学年となられると思いますが、体育館や特別教室などの施設を授業で利用する際に工夫されていることはありますか。

⇒専科制の学年もあるし、学級担任制のクラスもある。算数とか、2クラスで3展開をしたり、教室を余分に使っている。やりくりは大変。通常の小学校だと、担任の先生の裁量で授業を振り替えたりすることも可能だが、そういう部分は難しい。

担任の裁量で授業時間数の調整が難しくなる。時間割を決める学年担当を置いていかないと回らない。労力がかかっている。

(16)学級担任の持ち上がりはあるのか。

⇒持ち上がりで受け持つ先生もいるが、クラス編成があるので、必ずしも同じクラスを受け持つということはない。

(17)会議の持ち方、職員会議や研究会、小中で持たれる会議について

⇒教員会議・・・毎週木曜日に実施。中学校と行うが必要に応じて。小中高の担当者会議を定期的に実施。教科等の会議や指導部会は、曜日を決めて実施。研究は、毎週火曜日の放課後全員で実施。

(18)学校評価に類似するものはあるのか。

⇒全保護者に対して、アンケート実施。結果は保護者に公表。学校の計画に反映。評価委員会にて、学校方針等を説明し、評価を頂いている。仕組みだけでなく、私立は口コミの世界なので、評価が悪いと人は集まらない。入試そのものが評価と捉えている。

(19)職員が立命館小学校に対してどんな誇りをお持ちなのか。

⇒子どもたちの学ぶ意欲をみんなで作っていきこうということがみんなの目標。新しい価値を作り出しながら、子どもたちの学びを、イキイキしたものをどのように作っていくのかを考えている。

(20)先生の1週間の平均時間数は。また勤務時間は。

⇒時間数は、専科の時間もあるので、ばらつきがある。小学校低学年 20～22 時間程度。専科は、10時間半ば。勤務時間は、8時まで全員が来ている。帰宅時間は、21時を超えて残らないこととしている。

(21)土曜日出勤した場合の処理は。

⇒年間の時間数で考えているので、代休という形ではない。私立の場合、入試に関わる人が多い。イベントごとがあるので、そのような振替は長期休業中に行っている。

(22)タブレットの購入は、個人持ちということだが、家庭学習への応用はどうか。

⇒持ち帰っていない。今後、持ち変えることを想定しながら進めていく。

(23)校歌は小学校独自か。

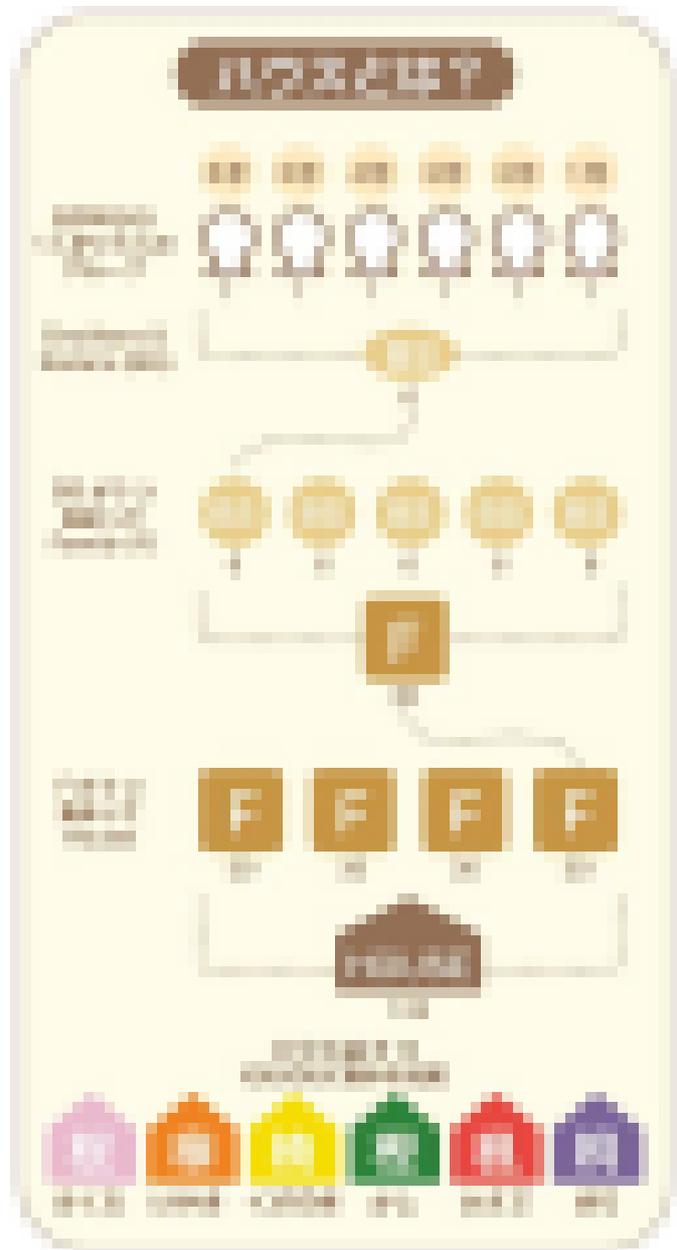
⇒中高も含め、大学と合わせて学園歌としている。

(24)壁にかけている漢字はなにか。

⇒漢字学習に力を入れている。児童会が今年どういったことに頑張っているかということ漢字で募集する。児童会で選定して、書いていただいている。今年のメインテーマとして掲げている。

(25)ランチルームでの食事のローテーションは。

⇒基本的には、教室で食事をする。ランチルームはハウス活動等で食事をとるときぐらい。



平成 25 年 12 月 10 日

学校視察に関する質問と回答内容

Ⅱ. 視察先：東山開晴館

1. 学校の説明

- ・小中一貫による課題よりも、統合の課題が残っている。
- ・地域文化の違いを乗り越える苦しさがあり、半数は旧校から、半数は全く新しい学校から集まっている。信頼関係を築くのが大変だった。
- ・「全く新しい学校を作る」コンセプト
- ・社会の規範・・・体育大会でマスゲームをとりいれている。一回型にはまらないと、社会では通用しない。個性も大事だが、やるべきことができる子どもたちにしたい。取組みを常に社会の規範に照らし合わせて考える。小と中で考え方が異なる。特殊な空間は作らない。
- ・目指す子ども・・・「卑怯を許さない」－差別、いじめ、困っている人を助けない、やれることをやらないのも卑怯。
- ・入学式・卒業式・・・小学校卒業式、中学校入学式は行っていない。ただし、小学校課程修了式は行っている。卒業証書を渡すため。中学校課程進学式は、入学式とは程遠い簡略的な内容。
- ・開晴館・・・瞳を開く学び舎。公募で学識経験者による漢字の組み合わせ。
- ・読解力・・・課題を設定する力、情報収集選択力、情報活用力、相互交流力、自己活用力。考えて、判断して、行動する。
- ・学習確認プログラム・・・京都市全学校で実施。全市平均 100。小 3 以上が対象。開校当初は 109→本年度は 116。これは統合効果と捉える。一緒になることで刺激を受けあうことは大きい。
- ・学校では志を育てたい。学校そのものに、校長そのものに志が無いといけない。これから 100 年先まで続いていく学校。今後の社会を背負っていきける子どもたちを自信を持って育てていく。その時に何を幸せと感じるか。幸福感を子どもたちに育てていきたい。
- ・教育委員会として、小中一貫校を新しい学校として、先生の配置をどう考えるのか。教職員の配置数によって運用方法が異なる。そのため、教育後援会の支援で教員の配置で運用している部分もある。
- ・一般的な小中学校と小中一貫校では学校の考え方、方針が異なる。年数がたてばたつほど、方向性は差が開いていくと思う。そうすると、先生方は一般的な小中から小中一貫校に異動になるとなじめない、対応できない部分がある。その時が大きな危機と感じている。開校前後にいる教員と開校後に来る教員の温度差が出てくるのが難しい。
- ・思いだけは教職員と共有したい。新しい学校を作る喜びを感じられるように。地域・保護者含め自分たちの子どもたちを自分たちの力で、どのように素晴らしくできるのかをともに考えたい。

2. 質問

【学校運営】

- (1) 学校運営に携わる教職員・スタッフ数について教えてください。

(2) ステージと小学・中学を使い分けてあるようですが、主にどちらを主眼に学校運営を行われていますか。

⇒始めステージ制で運用しようとしたが、うまくいかず。特にセカンドステージ(5～7年生)。子供の発達をみると自然なこと。4年までは、素直に従おうとするが、5・6・7年の思春期。6年は普通の学校では、リーダーになる。しかし、6年生は上を見る。9年生を見る。9年生をみると手を抜くことを覚えてしまう。小中一貫の課題になるのでは。

⇒セカンドステージの5・6年生に教科担任制を導入。6年生の早熟化の影響が出てきている。たとえば、小学校のスーパーティーチャーなら、なにか問題が発生したとき、子どもの背景、内面理解をし、関係をうまくとっていく。中学校から見たら、この先生が脅威になる。子供が変わったわけではない。子どもと先生との関係が良くなっただけ。この状態で中学校に来ると、小学校から聞いた内容と異なる。問題が顕在化して、中学校1年でがついてしまう。

⇒現在の6年生が7年生に上がったとき、5・6・7年生のシステムを完成させたい。

⇒3・4年生のところで、学習規律・生活規律を作ることが必要。その上の学年になってもそれが保てる集団を作りたい。

【教育課程等】

(3) 独自の教育課程を編成していますか。編制している場合、どのような特色を持たれていますか。また、何を柱に構成されていますか。

⇒英語・・・3年生から導入している。30時間導入。

読解の時間・・・教科にはしていない。評価のみしている。当然、各教科でつけていく必要もある。読解の時間では、それぞれのテーマ・課題を子どもたちが設定し、子どもたち自身が何が必要なのかを考える、考えて情報収集・整理する。教科横断的に、この読解の時間を取り込んで授業を行う。総合的な時間とは異なる。読解の時間の上位に総合的な時間が位置づく。本来であれば、現代社会での課題や近未来での課題をテーマにしてほしい。そこにつなげていきたい。テーマによっては、調べたらわかるテーマもある。それは探究のテーマではない。教師の方もこれが指導できる力が就くかどうか課題。教師の立ち位置としては、子どもたちの支援にあたる。

(4) 開校に向けて行われた、教育課程等の編成内容を教えてください。

⇒七つの小学校の先生方で部会を編成。1つは教科の部会、分掌の部会、新しくやる取組みの部会(スパイラルタイムの部会、読解の時間の部会など)。現場の先生方は、2つ、3つ持つ必要があり、大変だった。

(5) 独自の教科・学習や「スパイラルタイム」について教えてください。

⇒陰山メソッドが発端。リズム体操した後に100マス計算をさせるということに取り組んできた。一からやるのではなく、いいところをまねる。

(6) 行事や式典などについて教えてください。(特に体育祭、文化祭、式典、修学旅行等)

⇒合同の体育大会・・・1年生は、6年生の組体操をすごいという、9年生の組体操を見たら、6年生は自分たちもやりたいという。1年生から見たら、9年生は雲の上の存在。

900人の体育大会では、一人当たり2種目程度だった。これまで、100人程度で行っていた

学校からしたら、大変出番が少なくなったので、苦情が多かった。本年は4種目にできた。
小学低学年の徒競走をみたら、中学生は必至になる。そのようなことがお互いを刺激し合う。
低学年は、高学年の姿に感動し、高学年は低学年の姿をみて振り返る。

(7) ポスターセッションや卒業論文について、実施内容等を教えてください。
⇒読解の時間で調べた内容等を発表する機会。6年生ではポスターで発表、中学生はPPTで発表。9年生はポスターセッションで発表。それをまとめたのが、卒業論文になっている。

(8) 児童、生徒会の運営方法と構成について教えてください。
⇒生徒会は中学生、児童会は小学生で構成している。

(9) 部活動について教えてください。
⇒マーチング・・・5年生から一緒にやっている。クラブ活動として。ただし、5・6年生が中学生と一緒に部活動をするのは、週に3日。土日はしない。5・6年生と中学生の力量は開いていく。課題ではある。中学生と一緒に大会には出場している。

⇒キャリア教育・・・7年生では、例えば月20万円でどんな生活をするのかという生活設計をしたり、8年生では職場体験学習を実施。このようなところで、自分に何が足りないのかを主体的に自覚させたい。

⇒ポートフォリオ・・・生徒1冊ずつ。自分の夢はなんなのか、自分は何ができるのか、自分はこういう風に社会に役に立っているのか、保護者は自分のことをどう考えているかをつなげていきたい。

子どもたち自身のポートフォリオの活用の仕方・・・教師側が使い切れていない。

子どもたちにとっては、自分自身がどのように変わってきたのかが目に見える点が良いと感じた。

【給食】

(10) ランチルームでの給食や給食調理場の運営について教えてください。

【施設】

(11) メディアセンターについて(蔵書冊数、貸出冊数、蔵書配置など)教えてください。

⇒20,000冊蔵書。重複する本があり、メディアセンターの専属司書教諭で判断にゆだね選定した。小中の本が並んでおり、中学生でも小学生向けの本が読めるし、小学生が中学生向けの本を読める。

メディアセンターなので、情報を集める場所として、この隣にCP室を設置。

(12) 特別教室の中で、図工や技術室、家庭科調理室、音楽室などは、共用していますか。共用している部屋がある場合、机の高さを考慮しているところがありますか。

【通学】

(13) 通学方法やバス・自転車の利用範囲・対象者・補助制度等を教えてください。

⇒自転車の通学は許可せず。徒歩またはバスによる通学。徒歩は当初中学生が小学生を引率して登校させた。2か月後から小学生だけ集団登校させ、中学生は見守りという形をとっている。バスは、全額市の補助で乗車している。

【制服】

(14) 制服の運用方法等について教えてください。

【学校支援機関】

(15) 学校運営協議会、教育後援会、PTA、子ども見守り隊について教えてください。

⇒学校は肥大化している。いろんな役割を背負わされている。本来の学校の役割は、子どもに力をつけさせること。力をつけることに専念させたいが、そぎ落としたりしても落とせない。

地域・家庭の力を貸してもらおう。開かれた学校づくりを行っている。

学校運営協議会・・・単に口を出すだけでなく、実際に動いてもらう実働部隊が必要。課題点を洗い出し、改善策を考え、改善にも手伝ってもらっている。

⇒教育後援会・・・お金を扱う。学校を応援するために、お金を集めてもらっている。学校とは一切かわりがないところに事務局をおいている。学校内のことにお金を使っている。

一定以上のぜいたく品を教育後援会で賄ってもらっている。本来、市費で補填されるべきであるかどうか判断どころ。

(16) 放課後まなび教室の運営方法等について教えてください。

⇒教室を解放しているが、運営自体は地域の方にゆだねている。もと、保護者の方や学生ボランティアがメイン。

【統合に関して】

(17) 旧校の文書類や校旗、引越等について教えてください。

(18) 統合前の交流活動等について教えてください。

(19) 統合前の準備において、特に大変だった点や準備に時間を要する点はありましたか。

(20) 統合における学校間の調整で、制度面の調整が困難だった内容がありますか。学校間の制度で大きく異なった内容はありましたか。

⇒新しい学校を作る上で、旧校の内容を参考としている部分は全くない。先生方の中には生きていると思う。基本的な骨組みには入れていない。

(21) 開校後の子どもたちの様子について教えてください。

(22) 開校後の学校に対する地域や保護者の意見・見方はどうですか。

(23) 読解の時間を取り組むことで、どのように指導が変わってきたか。

⇒小学校は授業改善がどんどん進むが、中学校はなかなか進まない。小学校の場合、複数学級あれば、学年団で授業の様子をみあうので、技量向上につながっている。中学校の教科指導は、複数配置が少ないこともあり、一人で研究するしかない。1～9年の先生方を8教科に分けて、研究している。相互に必要なときの必要な指導が見えてくる。

(24)先生方の授業時間数はどのくらいか。

⇒小学校で30時間、中学校の先生は20時間ぐらい。5・6年生は国語・算数・1教科を担当が実施。その他は教科担任制を取り入れており、かつ教職員の配置数は、小学校の場合3クラスなら3人なので、その中で配置するのが難しいし、施設が窮屈な中で運用する面も難しい。